

6カ国協議「霧の中」

米特別代表 中国の対応がカギ

【ソウル＝築山英司】北朝鮮で新たなウラン濃縮施設とみられる建物が明らかになり、北朝鮮核問題をめぐる六カ国協議再開の行方がより不透明になってきた。米國はボスワース北朝鮮担当特別代表の日中韓三カ国派遣で、協議再開に積極的な北朝鮮への対応の調整に乗り出した。これに対し、日韓両政府は再開に慎重な姿勢を維持する構えだが、議長國中国の出方がかきを握りそうだ。



22日、ソウルで、韓国の金星煥外交通商相(右)と会談する米國のボスワース北朝鮮担当特別代表＝E.P.A・時事

「霧の中にある」。するかの報道陣からだ(六カ国協議は)生きており再生すること「も可能だ」と述べ、北朝鮮との直接対話に方針転換する可能性に含みを残した。

韓國政府は、北朝鮮が非核化に向けた意思を行動で示すことが重要だとしてきた。韓國政府関係者は「ウラン濃縮は新しい事実ではない。過度に対応しなければ良い」と冷静に対処する方針を示した。韓國には制裁強化を求める意見もあり、李明博大統領は訪韓した山口那津男公明党代表に対し日米韓三カ國で北朝鮮をけん制する必要性を強調した。

しかし、米國は従来の慎重姿勢を転換せざるを得なくなるかも

北、数年で広島級原爆製造可



北朝鮮のウラン濃縮問題について、澤田哲生・東京工業大原子炉工学研究所助教(原子核工学)「写真」に聞いた。

北朝鮮が示した処理能力(年間八千トンSWU＝分離作業単位)を計算す

ると、核兵器に使える高濃縮ウランは数年内で五十トン程度が製造可能。これは広島級の原爆一個分、出せる外交カードを得るに近づく。北朝鮮側は「青森県六ヶ所村の濃縮工場は分離機もモテルにした」としたが、部分的な公開情報や文獻を参考にすると、濃縮技術はミサイル技術者やバキスタンに提供される見返りに同国から入手したとみる。核実験を一九九八年にイスラム圏で初成功させた同国のカーン博士は、勤務したオランダの濃縮工場から分離機を盗み出した。報道が事実ならば、北朝鮮は「低濃縮」平和なモテルにした」と述べた今回の北朝鮮の説明も符合する。

(北朝鮮側は「青森県六ヶ所村の濃縮工場は分離機もモテルにした」としたが、部分的な公開情報や文獻を参考にすると、濃縮技術はミサイル技術者やバキスタンに提供される見返りに同国から入手したとみる。核実験を一九九八年にイスラム圏で初成功させた同国のカーン博士は、勤務したオランダの濃縮工場から分離機を盗み出した。報道が事実ならば、北朝鮮は「低濃縮」平和なモテルにした」と述べた今回の北朝鮮の説明も符合する。)

北朝鮮住民の寿命 韓国より12歳短い

韓国統計庁推計

報告書は、一九九三年(同八三・三歳)と推と、九三年比でそれぞれ二〇〇八年に北朝鮮定。男性は韓國の八四・七歳強縮まり一時はが行った人口一斉調査年、女性と同八二年水、最低水準で推移。その資料を基に、専門家の推定という。

意見や北朝鮮を脱出し、北朝鮮は九〇年代半、また統計庁は、北朝鮮の期待寿命は、期待寿命も食料難、占める高齢社会に突入、一歳(韓國七六・五年)には男性五九・五で、韓國の十五年後に、女性七一・〇歳、女性六六・四歳となると予想した。

中国は朝鮮半島の安定を重視し、六カ国協議再開に積極的な立場。ウラン濃縮問題への対応はまた明確にしておらず、二十三日に北京入りするボスワース氏と武大偉朝鮮半島問題特別代表との協議が注目される。

米核専門家のヘッカー元ロスアラモス国立研究所長が確認した、北朝鮮・寧辺のウラン濃縮施設。装置の遠心分離機は青森県六ヶ所村などの濃縮施設がモデルという。米国など

は、核兵器の原料になる高濃縮ウラン製造の懸念を示しているが、ちょっと気になるのは北朝鮮が日本の施設を例示したことだ。どんな意味があるのか。(鈴木伸幸)

北朝鮮がウラン濃縮施設で例示

「六ヶ所」で導入元隠しか



ヘッカー元所長
=EPA・時事

「兵器級の高濃縮ウラン製造? そんなことありえない」。原発の燃料となる低濃縮ウランを六ヶ所村の工場で製造する日本原燃の広報担当者は、言下に否定した。

天然ウランには、核分裂を起すウラン235が0.7%程度含まれる。235だけを抽出する作業で、濃度を90%以上にまで高めたものが、兵器級の高濃縮ウラン。電力会社に販売する低濃縮ウランは5%以下。六ヶ所村は遠心分離機などの施設で濃縮する。広報担当者は「国の規制で、5%以上になると

インターロックが稼働し、本当に寧辺に設置されて、生産が止まる。しかかれていたとして、兵器級も国際原子力機関（IAEA）の高濃縮ウランを最大四E.A.の査察が、年間に十(核兵器)発分に相十六、七回も入る。規格(製造できるのか。外の濃縮ウラン製造なんて理論的にはともかく、知識と、製造の技術は別問題。莫大な電力も使う」と疑問視するのモラルとして例示された。こちらも、原発用燃正勝名教授だ。

「原燃はこうして開発された」の著書がある山崎氏は「北朝鮮の現状が、低濃縮ウランのほかに、医療用や産業用の機材も製造。六ヶ所村と同様にIAEAとされるし、民生用を強調するために『六ヶ所』などを例示するのも不可解。ヘッカー氏が見た装置は小規模で、現段階で



2008年2月、初公開された北朝鮮・寧辺の核施設の原子炉周辺で、防護服を着た作業員と取材関係者（A.P）

は騒ぐ必要はないのでは核兵器には、広島に落

いと。

北朝鮮ではプルトニウム型を先に開発した。その型と、長崎の「プルトニウム型」がある。一般に、プルトニウム型は起爆装置が複雑で、それが製造上の難点。濃縮プルトニウムが、比較的簡単に抽出できたからだ。

ただ、原子炉の老朽化でさらなるプルトニウムの抽出は困難とされ、その代替として北朝鮮は濃縮ウランに目を付けたとされる。

元自衛官で北朝鮮研究家の宮田敦司氏は「北朝鮮は対外的アピールで米国のとの交渉を繰り返してきた。濃縮ウラン型の技術は（北朝鮮は否定するが）『パキスタンから導入』とみるのが一般的。それを隠すために、六ヶ所村を挙げたのだろ」と分析し、こう語った。

「今回も、稼働しているかどうか分からない遠心分離機を見せて、交渉カードに使おうとしているだけ。騒げば、北朝鮮の思いつきなので、国際社会はあくまでも冷静に対処すべきだ」

パキスタンの技術? 「騒げば思いつくば」

の施設で濃縮する。

ロシア最高首脳として今月一日、初めて北方領土を訪れたメドベージェフ大統領。日本の警告を意に介さず、領土問題で強硬路線に大きくかじを切った。対ロシア外交の脆弱さをさらけ出した日本政府は今後の領土交渉を根本から立て直す必要がある。



酒井 和人

ロシア最高首脳として今月一日、初めて北方領土を訪れたメドベージェフ大統領。日本の警告を意に介さず、領土問題で強硬路線に大きくかじを切った。対ロシア外交の脆弱さをさらけ出した日本政府は今後の領土交渉を根本から立て直す必要がある。

「日本の首相と会い、解決不能の論争より経済協力の方が有益だと伝えた」。横浜での日ロ首脳会談後、メドベージェフ大統領は短文投稿サイトでツイッターで「ツイッがや

いた。解決不能の論争とは当然、北方領土交渉のこと。大統領は会談で日ロ平和条約締結へ向けた西国のアプローチを経済優先に変えることも求めたという。そこには北方四島の帰属確認を条約締結の前提とする日本の立場への配慮はない。

会談後、口政権内からは平和条約締結後の曲舞、色丹の日本への引き渡しを明記した日ソ共同宣言（一九五六年）の撤回を主張する声も漏れた。ロシアが譲歩ラインとしてきた二島返還にすら応じず、事実上、領土問題の存在を認めなかった旧ソ連時代への逆戻りを意味する露論だ。大統領の北方領土訪問計画は九月下旬に表面化。日本外交筋によると、実際に訪れるまで外交ルートを通じてロシア側から得た感触は「プリン（脅し）」だったという。事実、複数のロシア外交筋は口外務省内では大統領の北方領土訪問に異論が少なくなかった

ゼロベース、関係を再構築を

たと打ち明ける。

ただ、同筋によると、今回の訪問計画を主導したのは外務省ではなく、クレムリン（大統領府）の内政担当部長だった。このことは訪問目的が二〇二二年の大統領選向け「強さ」を国民に誇示するため、との説を裏付ける一方、ロシアが北方領土を完全に自国領とし、訪問を内政問題と位置付けたことを示す。

これに対し、日本側は通常の外交ルートで中止を要請しただけで、クレムリン内に働き掛ける有効な手段を見いだせなかった。ロシア科学アカデミー東洋学研究所のキリチエンコ研究員は「ソ連崩壊後、日ロ関係が最接近したエリツィン元大統領時代と比べ、現在のクレムリンに親日派は少なく、西国間の対話のチャンネルは弱体化している」と指摘する。

今後、日本が「経済協力」を進めても、エリツィン時代の九〇年代と比べ、原油価格高騰などで経済伸長したロシアへの神通力は薄れている。領土交渉は袋小路に入ったのが実情だが、一方で核軍縮や北朝鮮、イランの非核化、地球温暖化対策など国際社会で認識を共有可能なテーマは多く、日ロ関係が先鋭化の一途を辿るわけではない。あせるとなく長期的、多角的にゼロベースから関係を再構築する一歩だが、領土交渉の進展にそれ以上の近道はない。

(モスクワ支局)